冬期に起る小兒の病氣

醫學士　青木醇一

○氣候の影響から

寒さが烈しくなるにつれて、幼兒の感冒や氣管支カタルが大分多くなつて參りました、一體に子供は氣候の影響を受ける事が成人に比して大變に大きいので、寒い季節や暑い時候に病氣に罹ることが特に多く、春や秋の如き溫和な季節には病氣に冒されることが非常に尠なくなります。

斯樣な理由で私共は子供の病氣を大體二つに分けることが出來ます。つまり冬の病氣と、夏の病氣であります。冬であると主として呼吸器の疾患例へば鼻カタル、咽喉カタル、氣管支カタル、肺炎と云ふやうな病氣が多く、夏には下痢とか、嘔吐とか云ふ樣な胃腸の症狀を伴ふ處の消化不良症新しい名で云へば營養障碍のやうな病氣が大多數を占めて居ります。

○抵抗力が弱い爲

つまり之は子供は成人に比べて抵抗力が弱い所から寒さや暑さに負けるので、子供の年齡の少ない程それが劇しいのであります。乳兒でみると其の死亡率の大部分が營養障碍か、氣管支カタル又は肺炎とか云ふやうな寒暑二季節の病氣によるものであると云つて過言でない程多いのであります。子供の年齡がすゝみまして學齡兒童期を過ぎると割合に斯樣な病氣が尠くなりますが、四五歲位の幼兒にはまだ〳〵澤山あります。そこで昨今の樣な寒い季節であると子供の病氣は多く寒さに

負けて起つてくる氣管支カタル、肺炎等が大部分で、消化不良症などの樣な夏の病氣は一寸見たくもない位尠くなつて居ます。それ故子供を持つ母親なり、幼兒をお預りになる保姆の方々は子供の衞生に於て、特に夏と冬と各變つた注意が必要な譯であります。夏ならば食物の注意を第一として子供の胃腸を害さないやうに、又寒い季節には胃腸を害すといふ心配はずつと少く、ともすると風をひくとか、氣管支カタルを起すやうなことがあるから特に此の方面の注意を怠つてはなりません。

○昨今の小兒病とその手當

そこで今日は幼兒の冬の病氣とその注意に就て少しお話したいと思ひます。前に申したやうに昨今は幼兒が呼吸器道のカタルを起すものが大分多うございます。これは主として寒さに由つて起るのであります。尤もその外にも流行性感冒、麻疹ジフテリア、百日咳等の病氣に際して隨分呼吸器のカタルを起しますが、それ等以上に氣候の寒いと云ふことが大關係をもつて居ります。

呼吸器のカタルと申しますと、先づ鼻カタル、咽喉カタル、氣管支カタル、肺炎等であります。

鼻カタルの場合には鼻汁が多くなつて、鼻が塞つてくる、四五歳以上の幼兒にはそれ程大した症狀は起つて參りません。尤も小さい乳兒でありますと、單に鼻カタルだけでも鼻孔が閉塞して、呼吸が困難になつたり、哺乳を妨げたりして隨分重い容態になります。此の鼻カタルが少し進んで參りますと、咽喉カタルであるとか更に奥に進みますと、氣管や、氣管支カタルを起すやうになります。

咽喉カタルの時には聲が嗄れて、咳嗽が出て來ます。多少の熱を伴ふこともあり、幼兒の氣分が惡くなります。これ等は溫かな室に靜かに寢かせて置きますと多くは輕快します。併し時として幼兒は喉頭カタルで急に呼吸困難を起したり、聲が

嗄れ咳嗽が劇しくなり、犬の吠える樣な厭な咳嗽をするやうになつて參ります。此の時には子供は何となく不安の狀を呈して參ります。斯樣な症狀はよく夜間に現はれてくる事があります。丁度ジフテリー性「グルップ」に似た病症でありますからこれを假性クルップと申して居ります。此の發作は間もなく止む事もありますし、又數時間も續く樣なこともあります。斯樣な場合は勿論早く醫師の來診を乞ふ必要がありますけれども、徒にあわてないで靜かに寢かして頸部に、溫濕布でも施して置くと間もなく症狀が消散するのがあります。

カタルがもつと深くすゝみますと、氣管支カタル、或は肺炎になるのであります。斯うなると熱は高くなり咳嗽も增して機嫌が惡くなり、食慾も減つて參ります。其の上呼吸が早く忙しくなります。子供の氣管支加答兒や肺炎の折には息づかひの早い程病氣は重いと見なければなりません。

すべてこれ等呼吸器道の加答兒に對しては一番大切な事は室內を溫かにして、乾燥しない樣にして置く事で、火鉢に鐵瓶等をかけて蒸氣の盛にたつ樣にしとくのがよろしい。昔から病氣には「藥よりは看護」と云はれて居りますが、殊に幼兒の氣管支加答兒や肺炎は手當が第一であります。多くの母親が病氣には藥が第一だと考へて居らるゝ樣ですが之は大なる誤りであります。一服の藥を與へずとも靜に休まして吸入でもかけ、室はあまり乾燥せぬ樣に又溫かい樣に注意してれば氣管支カタルや肺炎は極く重くない限り自然に治癒に赴くものであります。

○平素の攝生が大切

幼兒が感冒にかゝつたり氣管支加答兒になつたりし易いものには、平素から攝生に注意して、身體の抵抗力を增す樣に勉むる事が最も肝要であります。それにはあまり子供を大事にして寒い風に當てないとか、雨の降る時には外出を留めるとか

云ふやうな消極的の事をしないで、成るべく戸外の遊戯を奬勵することにしたいと思ひます。乳兒期でありますと寒い時に外出すると屢々風をひき易いと云ふやうな事もありませうが、四五歳位の幼兒には、さう寒さを恐るゝ必要はありません。却つてあまり大事にし過ぎると、自然皮膚や粘膜の抵抗力が尠くなり、一寸してもかぜをひく樣になります。皮膚を丈夫にする目的で大人では冷水浴、冷水摩擦等が盛んに奬勵されて居りますが、幼兒には斯樣な方法は少し無理かと思はれます。敢て斯樣な特殊の强固法を行ひませんでも、戸外の遊戯等で充分であります。雨の日雪の日を厭はず幼兒の欲するまゝに戸外に遊ばせるがよろしいではありませんか、たゞ餘り風の强い塵埃のたつ時は避けたがよろしい。

今一つの注意は、なるべく子供には厚着の習慣をつけて置かぬ事が大切であります。戸外に遊んでる時などは多少薄着でも決して寒さを感じないものであります。又東京邊の寒さならば、幼兒には洋服ならともかく、和服の下にはシャツ、ヅボン下などは不必要であります。その外四五歳以上の幼兒には夜分寢につく場合にも寢衣は必らず溫めないで着換へさせる樣に慣らして置くがよろしい。

○體質の弱い子供は大切にせよ

併し體質の弱い子供、例へば滲出性體質とか或は腺病質等の幼兒では特に大事にする必要があります、かゝる體質のものはとかく注意して居ても呼吸器の粘膜が加答兒に罹り易いのでありますから丈夫な子供と同一には論じられません。出來るならば此の樣な子供は寒い季節には溫暖な海岸にでも轉地をさせるがいゝ、或は夏季に山や海に轉地させて其の間に體を丈夫にさせて置くと、冬になつて感冒にかゝらない、或は氣管や、氣管支を冒

されない豫防になりませう。

○恐るべきジフテリヤ

なほ一つ、幼兒の冬の病氣として一寸附け加へて置きたい事は、ジフテリアであります。此の病氣は多く寒い季節に流行し、主として幼兒を冒す恐るべき傳染病性の疾患であります。そして治療の時期を失しますと隨分危險の多い病でありますから、母親たるものは多少此の病氣に就ての心得あつてほしいのであります。ジフテリアに罹りますと、始め多少の熱が出て、氣分が惡くなり、時には子供が咽の痛みを覺えます。此の時に咽頭を見ますとそこに白いものが付いて見えます、斯樣な場合、單に「かぜだ」位に心得て捨てゝ置きますと飛んだ失敗をすることがあります。又此の病氣がもつと奥の方に進みまして、咽頭の部分に來ますと、その部分の狹窄を起して呼吸が苦しくなり、聲が嗄れて來る。そして呼吸の際に、のどの部分に鋸をひく樣な一種の雜音が聞えて來ます。咳嗽は一種特別で、丁度犬の吠える樣な咳嗽になり、一般の狀態が非常に險惡になつて參りまして、暫く捨てゝ置くと生命の危險を起して參ります。それですから寒い季節には子供が變な咳嗽をしたり咽喉の痛みを訴ふる樣な折には特に早く醫師の診斷を乞ふ事が大切であります。